

## 専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
博物館概論	博物館概論	2	岡部 幹彦	集中(5)			1
博物館経営論	博物館経営論	2	高橋 修	集中(5)			2
博物館資料論	博物館資料・標本の特性	2	藤澤 敦	6	金	1	3
博物館資料保存論	博物館資料保存の方法と実務	2	水澤 教子	集中(6)			4
博物館展示論	博物館展示の理論と実践	2	水澤 教子	集中(6)			6
博物館情報・メディア論	博物館情報の現在	2	皿井 舞	集中(5)			8
博物館実習Ⅱ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4、5	9
博物館実習Ⅲ	博物館学資料分析法	2	阿子島 香	6	水	3、4	10
博物館実習Ⅳ	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	5	火	3、4	11
博物館実習Ⅴ	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	5	火	3、4	12
博物館実習Ⅵ	館園実習	1	藤澤 敦	集中(5)			13
地理学B	都市地理学からみた仙台	2	村山 良之	5	木	3	14
地誌学	都市社会の諸相・諸課題	2	小田 隆史	6	木	2	15
キリスト教史	世界の中のキリスト教	2	宮崎 正美	6	金	2	16
書道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	下田 真奈美	5	木	4	17
書道	書表現の基礎(二) (かな)	2	下田 真奈美	6	木	4	18
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅰ	2	高橋 章則	5	月	2	19
日本語・日本文化論講読	古典講読Ⅱ	2	高橋 章則	6	月	2	20
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	5	火	4	21

## 専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	曜日	講時	頁
日本語・日本文化論講読	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	6	火	4	22
日本語・日本文化論講読	現代評論講読 I	2	高橋 章則	5	水	2	23
日本語・日本文化論講読	現代評論講読 II	2	高橋 章則	6	水	2	24
日本語表現論	日本語表現論 II	2	高橋 章則	6	木	2	25
日本語表現論	日本語表現論 I	2	高橋 章則	5	木	2	26

**科目名：博物館概論／ Museology (General Lecture)**

**曜日・講時：**前期集中 その他 連講

**Semester：**集中(5), **単位数：**2

**担当教員：**岡部 幹彦 (非常勤講師)

**講義コード：**LB98834, **科目ナンバリング：**LHM-CUM301J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

博物館概論

**2. Course Title (授業題目)：**

Museology (General Lecture)

**3. 授業の目的と概要：**

博物館の定義を通じて博物館の目的・機能、社会的存在意義について学習する。また、我が国及び諸外国の博物館の歴史と法制度等について学習し、その現状と課題ならびに我が国博物館の特性を理解する。博物館に関する基礎知識を修得し、専門性の基礎となる能力を養う。

スライドを用いて講義形式で進行するが、適宜対話形式をとる。内外の事例を数多くの映像で紹介するほか、実物資料も用いる。

**4. 学習の到達目標：**

博物館の本質的機能とその社会的存在意義を理解し、これらからの博物館活動を考え、実践するうえで必要な基礎知識を修得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス、博物館の歴史 (1)
2. 博物館の歴史 (2) —日本の博物館史—
3. 博物館の定義 —博物館法と ICOM の定義—
4. 博物館の種類と区分 —設置者、運営者と法的区分—
5. 統計にみる博物館像 —日本の博物館の現状と課題—
6. 資料と情報 —資料の情報と価値を考える—
7. 展示 —観察と鑑賞、観る行為のもつ意味—
8. 保存 —博物館資料と地域所在資料、保存の意義—
9. 博物館教育 (1) —教育と学習、博物館ならではの学びとは—
10. 博物館教育 (2) —学びの契機の提供と学びのサポート—
11. 博物館と地域社会 (1) —施設運営から運動体の核としての発想へ—
12. 博物館と地域社会 —実践事例に学ぶ—
13. 高度情報化社会における博物館の機能 —新たな情報共有システムの構築—
14. 博物館と関連法令等 —国際条約と国内法—
15. まとめ —学芸員とは何か、求められる資質と役割—

**6. 成績評価方法：**

授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的に評価する。

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。プリント配布または参考図書を適宜示す。

Main course materials will be handouts and no textbooks will be used. Reference books will be suggested when appropriate.

**8. 授業時間外学習：**

多くの博物館のウェブサイトを開覧し、また身近な博物館と訪れて案内リーフレットや展示案内、事業案内 (参加募集チラシ) 等を入手し、すくなくとも利用者として博物館を理解しておくこと。特別展 (企画展) や常設展を観覧して、展示テーマや展示構成、展示方法、展示設備等と観覧者の反応などを観察しておくこと。

Students are required to visit familiar museums and obtain pamphlets, exhibition guides and other relevant materials in order to understand museums as a visitor. Moreover, students need to observe themes, arrangements, exhibition methods of both temporary and permanent exhibitions as well as reaction and behavior of viewers. Furthermore, students need to visit websites of various museums.

**9. その他：**なし

科目名：博物館経営論／ Museum administration

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：高橋 修 (非常勤講師)

講義コード：LB98835, 科目ナンバリング：LHM-CUM302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

博物館経営論

**2. Course Title (授業題目)：**

Museum Management

**3. 授業の目的と概要：**

博物館の活動は資料の研究、収集・保存、展示、普及交流事業といった基本的な活動に加え、地域振興、NPO やボランティア等の市民団体との連携、博物館評価など、その事業内容は多面化しつつあります。これら事業同士を結び付け、発展させていくために、あらためて博物館経営の在り方が問われています。博物館経営の現状と課題についての諸問題を学びます。

**4. 学習の到達目標：**

- 1：博物館経営の基本的な仕組みを理解する。
- 2：社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 博物館の使命と事業体系
- 第3回 博物館評価の仕組み
- 第4回 博物館のアメニティ ミュージアムショップとミュージアムレストランを中心に
- 第5回 博物館経営における組織・人員の在り方
- 第6回 博物館の運営形態 指定管理者制度を中心に
- 第7回 博物館経営における集客と広報
- 第8回 博物館の財政
- 第9回 博物館を支援する団体 博物館友の会を中心に
- 第10回 博物館同士のネットワーク
- 第11回 博物館経営における市民参画 博物館ボランティアを中心に
- 第12回 博物館経営と市民団体とのネットワーク NPO 法人との連携を中心に
- 第13回 博物館経営における学校教育とのネットワーク
- 第14回 博物館の危機管理
- 第15回 まとめ 博物館経営の課題

**6. 成績評価方法：**

平常点(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)

平常点は授業への参加状況、小レポートの提出状況等から総合的に判断をします。

**7. 教科書および参考書：**

参考書：大堀・水嶋編『博物館学 III 博物館情報・メディア論\*博物館経営論』(学文社、2012年)

**8. 授業時間外学習：**

できるだけ様々な博物館を訪問し、運営の在り様について比較検討しながら、それぞれの館の個性を把握するよう努めてください。

**9. その他：なし**

科目名：博物館資料論／ Museum artifacts

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB65103, 科目ナンバリング：LHM-CUM303J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

博物館資料・標本の特性

**2. Course Title (授業題目)：**

The characteristic of the various museum collections

**3. 授業の目的と概要：**

博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあり、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究の方法も異なっている。本講義では、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本について、3人の教員が各専門分野から、博物館資料としての特性を講義する。

**4. 学習の到達目標：**

博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、古生物・考古・美術史等の各分野の資料標本の特性について理解する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 博物館法における博物館資料
3. 考古学資料の種類と特質
4. 考古学資料の収集と管理
5. 東北大学所蔵の考古学資料
6. 古生物学資料について（1）
7. 古生物学資料について（2）
8. 古生物学資料について（3）
9. 古生物学資料について（4）
10. 美術資料研究の歴史—江戸時代以前
11. 美術資料研究の歴史—明治時代
12. 美術資料研究—仏像について
13. 東日本大震災と博物館資料
14. 拡がる博物館資料
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

筆記試験(60%)と出席(40%)

**7. 教科書および参考書：**

プリント資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

**9. その他：なし**

**科目名：博物館資料保存論／ Museum preservation**

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：水澤 教子 (非常勤講師)

講義コード：LB98836, 科目ナンバリング：LHM-CUM304J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

博物館資料保存の方法と実務

**2. Course Title (授業題目)：**

Method and Technique of Museum Preservation

**3. 授業の目的と概要：**

博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。

**4. 学習の到達目標：**

博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。
2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。
3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。
4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。
5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。
6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。
7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。
8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。
9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。
10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。
11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。
12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆紙文書の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。
13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。
14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせる実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・

展示事例として紹介する。

15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。

**6. 成績評価方法：**

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

**7. 教科書および参考書：**

プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。

**9. その他：なし**

**科目名：博物館展示論／ Museum exhibit planning and design**

**曜日・講時：**後期集中 その他 連講

**セメスター：**集中(6), **単位数：**2

**担当教員：**水澤 教子 (非常勤講師)

**講義コード：**LB98837, **科目ナンバリング：**LHM-CUM305J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

博物館展示の理論と実践

**2. Course Title (授業題目)：**

Theory and Practice of Museum Exhibit

**3. 授業の目的と概要：**

展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのもの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。

**4. 学習の到達目標：**

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを事例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。

2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。

3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。

4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に取り上げて解説する。

5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。

6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演示具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。

7. 「展示解説Ⅰーパネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。

8. 「展示解説Ⅱー展示図録」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。

9. 「展示解説Ⅲー人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。

10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。

11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を体験する。

12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。

13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示

型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。

14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。

15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。

**6. 成績評価方法：**

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

**7. 教科書および参考書：**

プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。

**9. その他：なし**

科目名：博物館情報・メディア論／ Museum informatics and media practices

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：皿井 舞 (非常勤講師)

講義コード：LB98838, 科目ナンバリング：LHM-CUM306J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

博物館情報の現在

**2. Course Title (授業題目)：**

The Current Situation of the Cultural Information in Museumes

**3. 授業の目的と概要：**

博物館に求められる役割が大きく変化しつつあり、また高度情報化がますます進展する現在において、作品の収集・保管・活用を使命とする博物館は、いかなる文化財情報を作成し、発信していくのか。博物館における文化財情報とは何か、その情報の作成・整理・管理の理念と実際、さらに情報発信の方法について学ぶ。また文化財情報を利用する利用者の立場からも、日本だけではなく、世界においてどのような情報発信が行なわれているかを知り、博物館における情報のあり方について批判的に検証する。

**4. 学習の到達目標：**

高度情報化社会における博物館を取り巻く情報環境、その今日における課題について理解する。博物館における情報発信の方法を理解する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

本授業は、講義とミニ実習を中心とした授業とする。

1. ガイダンス
2. 博物館とメディア
3. 文化財情報の歴史 1
4. 文化財情報の歴史 2
5. デジタル技術と文化財情報 1
6. デジタル技術と文化財情報 2
7. 世界における文化財情報—米国・ゲッティ研究所の戦略—
8. 博物館と情報発信
9. 展覧会の成り立ち
10. ケーススタディ 1：近隣博物館施設の情報とメディア 1 (臨地実習)
11. ケーススタディ 2：近隣博物館施設の情報とメディア 2 (臨地実習)
12. ケーススタディ 3：展覧会をつくってみよう
13. 講評 (ミニ実習)
14. メディアを活用した普及教育
15. 総括

**6. 成績評価方法：**

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

**7. 教科書および参考書：**

講義のなかで適宜紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報にできるだけ接して予備知識を持っておくことを勧める。

**9. その他：なし**

**科目名：博物館実習Ⅱ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅱ**

**曜日・講時：**前期 金曜日 4講時. 前期 金曜日 5講時

**Semester：5, 単位数：2**

**担当教員：**籠橋 俊光 (准教授)

**講義コード：**LB55407, **科目ナンバリング：**LHM-CUM307J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

史料整理・保存の理論と方法

**2. Course Title (授業題目)：**

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

**3. 授業の目的と概要：**

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

**4. 学習の到達目標：**

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 図書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い
13. フィールド実習
14. 史料整理の基礎 (1)
15. 史料整理の基礎(2)

**6. 成績評価方法：**

出席[30%]・受講態度[20%]・レポート[50%]

**7. 教科書および参考書：**

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と図書館学』（吉川弘文館）。

**8. 授業時間外学習：**

特になし。

**9. その他：なし**

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：博物館実習Ⅲ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB63313, 科目ナンバリング：LHM-CUM308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

博物館学資料分析法

2. Course Title (授業題目)：

Field Work and Methodology on Museology

3. 授業の目的と概要：

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。
  2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。
  3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
  4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
  5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
  6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
  7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
  8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
  9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
  10. 写真撮影 (1)。
  11. 写真撮影 (2)。
  12. 写真撮影 (3)。
  13. 保存処理に関する研修。
  14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。
  15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。
6. 成績評価方法：
- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]  
(○) その他 (具体的には、受講態度、発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

実測図の作成などの宿題が相当量ある。

9. その他：なし

前期に考古学実習を履修していることが望ましい。

**科目名：博物館実習Ⅳ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅳ**

**曜日・講時：**前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**長岡 龍作

杉本 欣久 (教授、准教授)

**講義コード：**LB52309, **科目ナンバリング：**LHM-CUM309J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

美術作品取り扱いの理論と実践

**2. Course Title (授業題目)：**

Theory and practice of handling artworks

**3. 授業の目的と概要：**

作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 写真資料の複写
2. 美術作品についての発表
3. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
4. 展示についての考え方と実践

**4. 学習の到達目標：**

美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. 美術作品についての口頭発表の方法と実践
3. 写真資料の複写の方法と実践
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 美術作品についての口頭発表と講評
8. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 1
9. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 2
10. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 3
11. 美術作品の取り扱いと調査の仕方 4
12. 博物館展示の考え方と実践 1
13. 博物館展示の考え方と実践 2
14. 博物館展示の考え方と実践 3
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

出席 [80%]・授業態度 [20%]

**7. 教科書および参考書：**

資料はその都度配布する。

**8. 授業時間外学習：**

展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

**9. その他：**なし

**科目名：博物館実習Ⅴ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅴ**

**曜日・講時：**前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**尾崎 彰宏 (教授)

**講義コード：**LB52310, **科目ナンバリング：**LHM-CUM310J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

西洋美術史の基礎知識と調査入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology

**3. 授業の目的と概要：**

西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。

**4. 学習の到達目標：**

西洋美術史 (古代～中世) について、最低限の知識を身につける。美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひとり自分で行えるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ガイダンス、発表の仕方、展覧会評の書き方
2. 展覧会見学
3. 写真撮影の仕方
4. 調書の作り方、作品記述の方法
5. 発表
6. 展覧会見学
7. 学術文献、論文の探し方
8. 小テスト、発表
9. 小テスト、発表
10. 展覧会見学
11. 小テスト、発表
12. 小テスト、発表
13. 小テスト、発表
14. 小テスト、発表
15. まとめ

※展覧会の開催日程により、予定変更となる場合あり

**6. 成績評価方法：**

発表 (30%)、授業への貢献 (30%)、小テスト (20%)、展覧会評 (20%)

**7. 教科書および参考書：**

教科書：H・W・ジャンソン『西洋美術の歴史』(創元社)

※発表準備の際には、美術史関連図書を適宜参照

**8. 授業時間外学習：**

発表の準備、小テスト対策 (復習)、展覧会評の提出

**9. その他：**なし

科目名：博物館実習VI／ Museology (FieldWorkMethodology)VI

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5)， 単位数：1

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB98839， 科目ナンバリング：LHM-CUM311J， 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

館園実習

**2. Course Title (授業題目)：**

Museum training at the Tohoku university museum, archives and botanical garden

**3. 授業の目的と概要：**

博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本類について管理や展示などの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。

**4. 学習の到達目標：**

博物館における資料・標本類の管理や展示の実務作業を体験し習得する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り
2. 展示見学
3. 収蔵庫見学
4. 資料管理方法の体験（1）
5. 資料管理方法の体験（2）
6. 資料管理方法の体験（3）
7. 小グループによる展示案作成（1）
8. 小グループによる展示案作成（2）
9. 小グループによる展示案作成（3）
10. 小グループによる展示案作成（4）
11. 展示案の発表
12. 展示作成作業（1）
13. 展示作成作業（2）
14. 展示作成作業（3）
15. まとめと講評

**6. 成績評価方法：**

出席（80%）、受講態度（20%）

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。

**8. 授業時間外学習：**

実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。

**9. その他：なし**

学術資源研究公開センター（総合学術博物館、植物園、史料館）の教員スタッフがこの館園実習を担当する。授業実施期間以前に、事前のガイダンスを行う場合があるため、掲示に注意すること。

科目名：地理学B / Geography B

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：村山 良之（非常勤講師）

講義コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-GE0302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

都市地理学からみた仙台

**2. Course Title (授業題目)：**

Sendai: as a field of urban geography

**3. 授業の目的と概要：**

都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、主たる素材となる仙台についての基本的な情報を獲得する。

**4. 学習の到達目標：**

- ・都市地理学に関する基礎的な知識を獲得し、これを説明できるようになる。
- ・仙台に関する都市地理学的知識を獲得し、仙台を案内できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列
2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成）
3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴
4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化
5. 城下町とその変容(4)：戦災復興
6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都市内部構造の変容
7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界のLRT
8. 市街地の拡大とDID：町村合併と国勢調査
9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏
10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害
11. 都市の内部構造：因子生態研究
12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市群の変化
13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明
14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム
15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京

**6. 成績評価方法：**

複数回のレポート、100%

**7. 教科書および参考書：**

藤井正・神谷浩夫編『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2014年。  
他にも授業中に紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

オフィスアワーは、授業終了後に予約。

**9. その他：なし**

受講生は「都市地理学からみた仙台」の未履修者のこと。

**科目名：地誌学／ Topography**

**曜日・講時：**後期 木曜日 2講時

**semester：6, 単位数：2**

**担当教員：**小田 隆史 (非常勤講師)

**講義コード：**LB64212, **科目ナンバリング：**LHM-GE0303J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

都市社会の諸相・諸課題

**2. Course Title (授業題目)：**

Multiple Aspects and Challenges in Urban Societies

**3. 授業の目的と概要：**

地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。

**4. 学習の到達目標：**

都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 地誌学とはー地誌と地域研究
2. 地理学と空間概念
3. 世界都市論
4. 先進国の都市化
5. 発展途上国の都市化
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災
8. アメリカ地誌概説～その1
9. アメリカ地誌概説～その2
10. インナーシティと都市における多重剥奪
11. 移民・難民・エスニック集団と空間
12. 越境する人々の地誌～その1 難民の発生と再定住
13. 越境する人々の地誌～その2 日系アメリカ人コミュニティ
14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ
15. 総括・振り返り・授業内テスト

**6. 成績評価方法：**

筆記試験 [40%]、出席 [50%]、レポート [10%] で評価する。

**7. 教科書および参考書：**

教科書は指定しない。

授業で必要な資料は適宜コピーして配布する。

No specific textbook is designated while some reading materials will be distributed during the course.

**8. 授業時間外学習：**

オフィスアワーは設けていないが、教員は東北大（青葉山）に隣接する宮城教育大キャンパスに研究室があるため、希望があれば授業の内容等に関する質問・研究に関する相談を受け付ける。事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。

There is no office hour for the lecturer, however, an appointment can be made for arranging a meeting for inquiries. The email address will be provided during the class.

**9. その他：なし**

受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと

科目名：キリスト教史／ History of Christianity

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：木村 敏明（教授）

講義コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

世界の中のキリスト教

**2. Course Title (授業題目)：**

Global History of Christianity

**3. 授業の目的と概要：**

本講義では、二千年にわたるキリスト教の歴史を、「多様性」と「ダイナミズム」をキーワードとしながら概観する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) キリスト教とその歴史に関する基本的知識が理解できる
- (2) キリスト教の多様性とダイナミズムを理解できる

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. ユダヤからの出発①ユダヤ教
3. ユダヤからの出発②原始教団
4. アジアにおける展開①教義の確立
5. アフリカにおける展開①正統と異端、アウグスティヌス
6. 予備日：ビデオ鑑賞 アフリカのキリスト教
7. ヨーロッパにおける展開①ローマ帝国とキリスト教
8. ヨーロッパにおける展開②中世キリスト教
9. 予備日：ビデオ鑑賞 聖者と奇蹟信仰
10. ヨーロッパにおける展開③宗教改革
11. ラテンアメリカにおける展開①征服者としてのキリスト教
12. 北アメリカにおける展開①合衆国建国、大覚醒
13. ヨーロッパにおける展開④啓蒙時代、世界戦争とキリスト教
14. アジア・日本におけるキリスト教①イエズス会による宣教、キリシタン禁令と鎖国
15. アジア・日本におけるキリスト教②明治以降のキリスト教、聖書翻訳、大戦期のキリスト候

**6. 成績評価方法：**

授業中に配布するコメントペーパー[40%]、期末テスト[60%]

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用しない

Textbook will not be used.

参考書：松本宣郎（編）、『キリスト教の歴史』1・2、山川出版、2002年。

Reference: Matsumoto Norio(ed), The History of Christianity 1, 2, Yamakawa Shuppan, 2002.

**8. 授業時間外学習：**

内容を復習すること。

Students are required to review repeatedly.

**9. その他：なし**

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：下田 真奈美（非常勤講師）

講義コード：LB54404, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

書表現の基礎(一) (漢字)

**2. Course Title (授業題目)：**

The Elements of Calligraphy Expression (1) (Chinese Character)

**3. 授業の目的と概要：**

王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。

**4. 学習の到達目標：**

中国伝統の用筆法に従って、五つの書体が書けるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 楷書の基本十点画①（左はらい）
3. 楷書の基本十点画②（点1）
4. 楷書の基本十点画③（よこ画）
5. 楷書の基本十点画④（たて画）
6. 楷書の基本十点画⑤（折れ）
7. 楷書の基本十点画⑥（折れとはね）
8. 楷書の基本十点画⑦（曲がりとはね）
9. 楷書の基本十点画⑧（右はらい）
10. 楷書の基本十点画⑨（点2・点3）
11. 基本十点画のまとめ
12. 篆書
13. 隸書
14. 草書
15. 創作

**6. 成績評価方法：**

出席（毎時、清書提出）[100%]

**7. 教科書および参考書：**

肉筆手本・五體字類等。

**8. 授業時間外学習：**

11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

**9. その他：なし**

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：下田 真奈美（非常勤講師）

講義コード：LB64403, 科目ナンバリング：LHM-OHU301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

書表現の基礎(二) (かな)

**2. Course Title (授業題目)：**

The Elements of Calligraphy Expression (2) (Hiragana Character)

**3. 授業の目的と概要：**

- いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。
- かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。

**4. 学習の到達目標：**

独力でかなの古典臨書ができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. かな用小筆の執筆法・運筆法
3. 基本練習といろは単体 1
4. いろは単体 2
5. いろは単体 3
6. いろは単体のまとめ
7. 変体仮名
8. 連綿
9. 高野切第三種の臨書 1
10. 高野切第三種の臨書 2
11. 高野切第三種の臨書 3
12. 高野切第三種の臨書 4
13. 高野切第三種の臨書 5
14. 高野切第三種の倣書（下書き）
15. 高野切第三種の倣書（清書）

**6. 成績評価方法：**

出席（毎時、清書提出）[100%]

**7. 教科書および参考書：**

肉筆手本・プリント・高野切三種（影印本）等。

**8. 授業時間外学習：**

14. 「高野切第三種の倣書（下書き）」、15. 「高野切第三種の倣書（清書）」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらおう。

**9. その他：なし**

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB51211, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

古典講読 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Classic reading I

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

**4. 学習の到達目標：**

日本研究の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール
5. 講読 1 内裏・京
6. 講読 2 大津・草津
7. 講読 3 石部・水口
8. 講読 4 土山・坂之下
9. 講読 5 関・亀山
10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 講読 6 庄野・石薬師
12. 講読 7 四日市・桑名
13. 講読 8 宮・鳴海
14. 講読 9 藤川・赤坂
15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義

**6. 成績評価方法：**

発表の成果と出席

**7. 教科書および参考書：**

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

**8. 授業時間外学習：**

発表資料の作成

**9. その他：なし**

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB61208, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

古典講読Ⅱ

**2. Course Title (授業題目)：**

Classic reading II

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

**4. 学習の到達目標：**

日本研究の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 導入 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 導入 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 導入 4 「狂歌入り東海道」について、「講読」のルール
5. 講読 1 日本橋・品川
6. 講読 2 川崎・神奈川
7. 講読 3 保土ヶ谷・戸塚
8. 講読 4 藤沢・平塚
9. 講読 5 大磯・小田原
10. 鑑賞 1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 講読 6 箱根・三島
12. 講読 7 沼津・原
13. 講読 8 吉原・蒲原
14. 講読 9 由井・奥津
15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ

**6. 成績評価方法：**

発表の成果と出席

**7. 教科書および参考書：**

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

**8. 授業時間外学習：**

発表資料の作成

**9. その他：なし**

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：2カ国語以上

**1. 授業題目：**

日本史基礎文献購読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

**3. 授業の目的と概要：**

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

**4. 学習の到達目標：**

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

**6. 成績評価方法：**

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

**7. 教科書および参考書：**

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

**8. 授業時間外学習：**

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

**9. その他：なし**

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：2カ国語以上

**1. 授業題目：**

日本史基礎文献購読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

**3. 授業の目的と概要：**

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

**4. 学習の到達目標：**

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

**6. 成績評価方法：**

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

**7. 教科書および参考書：**

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

**8. 授業時間外学習：**

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

**9. その他：なし**

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB53209, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

現代評論講読 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Modern sentence reading I

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

**4. 学習の到達目標：**

日本研究の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 1 日本文化を考える（1）
2. 導入 2 日本文化を考える（2）
3. 導入 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 導入 4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 導入 5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 講読 1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール
7. 講読 2 『菊と刀』②
8. 講読 3 『菊と刀』③
9. 講読 4 『菊と刀』④
10. 講読 5 『菊と刀』⑤
11. 講読 6 『菊と刀』⑥
12. 講読 7 『菊と刀』⑦
13. 講読 8 『菊と刀』⑧
14. 講読 9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 『菊と刀』から新たな日本文化論へ

**6. 成績評価方法：**

発表の成果と出席

**7. 教科書および参考書：**

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

**8. 授業時間外学習：**

発表資料の作成

**9. その他：なし**

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語・日本文化論講読／ Studies of Japanese Culture

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB63209, 科目ナンバリング：LHM-OHU302J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

現代評論講読Ⅱ

**2. Course Title (授業題目)：**

Modern sentence reading Ⅱ

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

**4. 学習の到達目標：**

日本研究の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入1 日本文化を考える（1）
2. 導入2 日本文化を考える（2）
3. 導入3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 導入4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 導入5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 講読1 ベネディクト『菊と刀』① 講読のルール
7. 講読2 『菊と刀』②
8. 講読3 『菊と刀』③
9. 講読4 『菊と刀』④
10. 講読5 『菊と刀』⑤
11. 講読6 『菊と刀』⑥
12. 講読7 『菊と刀』⑦
13. 講読8 『菊と刀』⑧
14. 講読9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 日本文化と「わたし」

**6. 成績評価方法：**

発表の成果と出席

**7. 教科書および参考書：**

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

**8. 授業時間外学習：**

発表資料の作成

**9. その他：なし**

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本語表現論／ Japanese Composition

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB64213, 科目ナンバリング：LHM-OHU303J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

日本語表現論Ⅱ

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese expression theory Ⅱ

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（5セメスター）との連続履修が望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

日本語研究論文作成の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 導入 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 導入 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 導入 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 導入 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 導入 6 論文の作成 1 先行論文の発見
7. 導入 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 導入 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論の書き方
15. まとめと評価 レポートの作成

**6. 成績評価方法：**

レポート提出

**7. 教科書および参考書：**

『論文ワークブック』（くろしお出版）

**8. 授業時間外学習：**

レポート作成

**9. その他：なし**

外国人留学生を対象とする。

科目名：日本語表現論／ Japanese Composition

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-OHU303J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

日本語表現論 I

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese expression theory I

**3. 授業の目的と概要：**

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語表現論」（6セメスター）の連続履修が望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

日本語論文作成の基礎確立

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. 導入 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 導入 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 導入 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 導入 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 導入 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 導入 6 論文の作成 1 先行論文の発見
7. 導入 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 導入 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論
15. まとめと評価 レポートの作成

**6. 成績評価方法：**

レポート提出

**7. 教科書および参考書：**

『論文ワークブック』（くろしお出版）

**8. 授業時間外学習：**

レポート作成

**9. その他：なし**

外国人留学生を対象とする。